

◇学生との年金対話集会

成城大学の学生を対象にオンライン開催

…若者への年金広報の取組み、年金高職員と意見交換…



オンラインで参加する学生ら

厚生労働省年金局は令和元年度から新たな年金広報の取組みとして、「学生との年金対話集会」を全国各地で開催している。2年度も既に多くの実績(下段囲み)があり、1月12日には成城大学の学生13人(2年生、森周子ゼミ)を対象にオンラインで開催し



年金局職員が年金講義

た。この対話集会は、年金局職員との意見交換を通じて学生に年金制度への理解を深めてもらうことと、学生からの意見を今後の年金行政に活かすことを目的としている。同日は、はじめに年金局総務課年金広報企画室長の古川弘剛さんが、「わたしの年金



2グループに分かれてディスカッション

とみんなの年金」と題して講義。個人と社会の2つの視点から年金制度の役割や仕組みを説明するといった飽きさせない構成に、学生たちが熱心に耳を傾ける様子が画面越しでもうかがえた。その後は2グループに分かれ、学生と年金局職員によるディスカッションを実施。年金局側は若手とベテラン職員がタッグを組み、学生からの「講義を聞き、公的年金制度が非常に良くできた制度だとわかった」、「第3号被保険者

◇令和2年度の開催実績

- ・ 東北大学
- ・ 帝京大学
- ・ 熊本大学
- ・ 福岡大学
- ・ 愛知県立大学
- ・ 高崎経済大学
- ・ 東北公益文科大学
- ※帝京大学を除きオンライン開催

の保険料負担と給付は具体的にどうなっているのか」、「定年退職した後にパート勤務した場合、年金を受給できるのか」などの意見や質問に回答した。若手職員をベテラン職員が優しくフォローしたり、ツツコミを入れたりする場面も見られ、終始和やかな雰囲気にもまれていた。また、学生からは「どうして厚労省に入ろうと思ったのか」といった質問もあり、年金局総務課の若手職員である菅谷奈津子さんは「子どもの貧困や長時間労働など社会的な課題に関心があり、それを根本から解決できる職場だと考えたから」としている。